

地元農産品・観光資源による地域内活性化と都市部との人的交流推進

鳩山町須江・大橋・泉井地区 日本大学

1 活動目的

須江・大橋・泉井地域で生産される農産品には地域特性に関する情報が社会で十分に浸透しておらず、その魅力が他地域に知られていない状況となっている。そこで、地元の観光資源などと合わせて、須江地区の魅力の発見を通じて、地区の魅力おこしに取り組む。具体的には、地元産品やそれらを組み合わせた名産品を開発し、地元の伝統文化による観光資源を発掘し、実際に環境改善に協力することを数年間に渡る活動の長期目標と考えている。

2 活動地域の現状

須江地域で生産されるコメ、麦、大豆、あんずは農協や直売所へ直接卸しているため、地域の特徴が他地域に知られていない状況となっている。また、歴史的資産もあり、有機的連携の可能性がある。新型コロナウイルス感染症の拡大により、農産品の自宅需要が拡大する中で、オンラインによる情報発信とeコマースの推進は潜在的に可能性があると考えられる。

3 活動内容

7月7日、1年ぶりとなる現地の方々との全体打ち合わせ会。9月29日、農産品eコマースで著名なポケットマルシェの高橋博之代表をお招きしての勉強会。10月13日、メルカリShopsの布施健太郎政策企画参事をお招きしての勉強会。10月29日、ふるさと支援隊活動報告・交流会への参加。12月8日、10月から営業が始まった上熊井農産物直売所活用に関するミーティング、12月15日、都市農山村交流実践研修会への参加。12月22日、地元情報発信を行うホームページ作成に関する検討会。1月中旬、ホームページの試作に関するディスカッション。なお、1月30日と2月6日に予定していた現地活動は、オミクロン株による感染者数の増加に伴う、まん延等防止措置が関東圏の適用されたことを受け、直前に中止となった。

4 成果

本活動を通じて得られた成果は、1年間の中止期間ができてしまったものの、まず須江・大橋地区での活動の基盤とも言える信頼関係の復活がスムーズに行われた事が挙げられる。現地の皆様は空白の時間を思わせないほど、やっと戻ってきてくれたという形で暖かく迎え入れていただいた。

また、これまで関係を築いてきた方々に加え、新たに連絡を取ることができた現地の方、10月に開設された上熊井農産物直売所の担当者様、大橋地区の亀井小学校の先生方とも関係を広げることができたのは大きな収穫であった。新型コロナのため、現地活動で信頼関係を醸成するところまでは行かなかったが、来年度の活動に向けて、問題意識の共有や協

力の可能性などについて、お互いに理解を深められたと思う。

次に、オンラインを活用した情報発信、e コマースなどは今後有力な手段として活用できることである。魅力の発見は一昨年度の活動で行ったが、その情報提供を SNS ですすめる以外の事を考えていた。学生間で議論したところ、e コマースを利用してはどうかとの意見となり、地元農産品を使った e コマースに取り組むポケットマルシェやメルカリショップの皆様と意見交換をさせていただいた。そこで、まずは現地を訪れた方々の体験を発端として、e コマースや情報発信を通じて、ファン層として形成することで、長期的な関係に結び付けられることがわかった。そのうえで、地元の歴史的な資料などへの観光面や他の農産物への展開を狙って行けるという展開の道筋を見出すことができた。そのため、まずは農業面での活動の活性化を図りつつ、徐々に地域の観光資源へ広げてゆくのが地元の方々の要望に沿うものだということの認識を新たにした。

5 課題

一昨年度から本活動を行っているが、現段階での本地域の課題については、近郊農業の付加価値に関する問題、農産品の生産量問題、地域内の連携について、e コマースの実施形態についての 4 つに分けることができる。近郊農業の付加価値に関する問題については、都心部へのアクセスが良いことはチャンスでもあるが、新型コロナウイルス感染症のもとでは特に利点にもなっていないことがわかった。農産品の生産量問題については、近郊農業であることがメリットである反面、収穫量に不安定性があることがわかった。地域内の連携については、一昨年度の須江・大橋地区の活動にとどまらず、泉井地区の亀井小学校との連携や熊井地区の上熊井農産物直売所との連携に向けて、調整を進めたが、現地活動ができなかったため、実際にどのような協力ができるか見えないことである。e コマースについては、効果については理解できるが、実際に発注された場合に各農家が梱包、発送するのかについては、高齢者の多い状況下では現実的ではないということがわかった。

6 次年度以降の計画

来年度は本年度計画した e コマースの活用の実現、ホームページなどの情報発信力の強化、更に黒豆などの農産品の付加価値の向上といった活動を行いたいと考えている。あわせて、泉井地域で連携ができた亀井小学校とも小学生との交流の中で、地域全体のレベルでの町おこしに広げてゆきたいと考えている。今後、インターネットを通じた活動が広がることを考えると、現地訪問と仮想空間の融合による地域おこしが重要であると考えられる。情報発信については SNS を主体に実施してきたが、ホームページによってブログや解説動画を開設することで、より深掘した情報提供ができるのではないかと考えている。農産品の付加価値はコモディティ化が進む農業で、希望の持てる農業の実現には高付加価値化が重要である。鳩山町は伝統的な側面と、新しい側面がある。更に、あんず栽培加工組合は潜在的な伸び代を持っており、新しい側面の強調は都市部の消費者にアピールとなると考えられる。